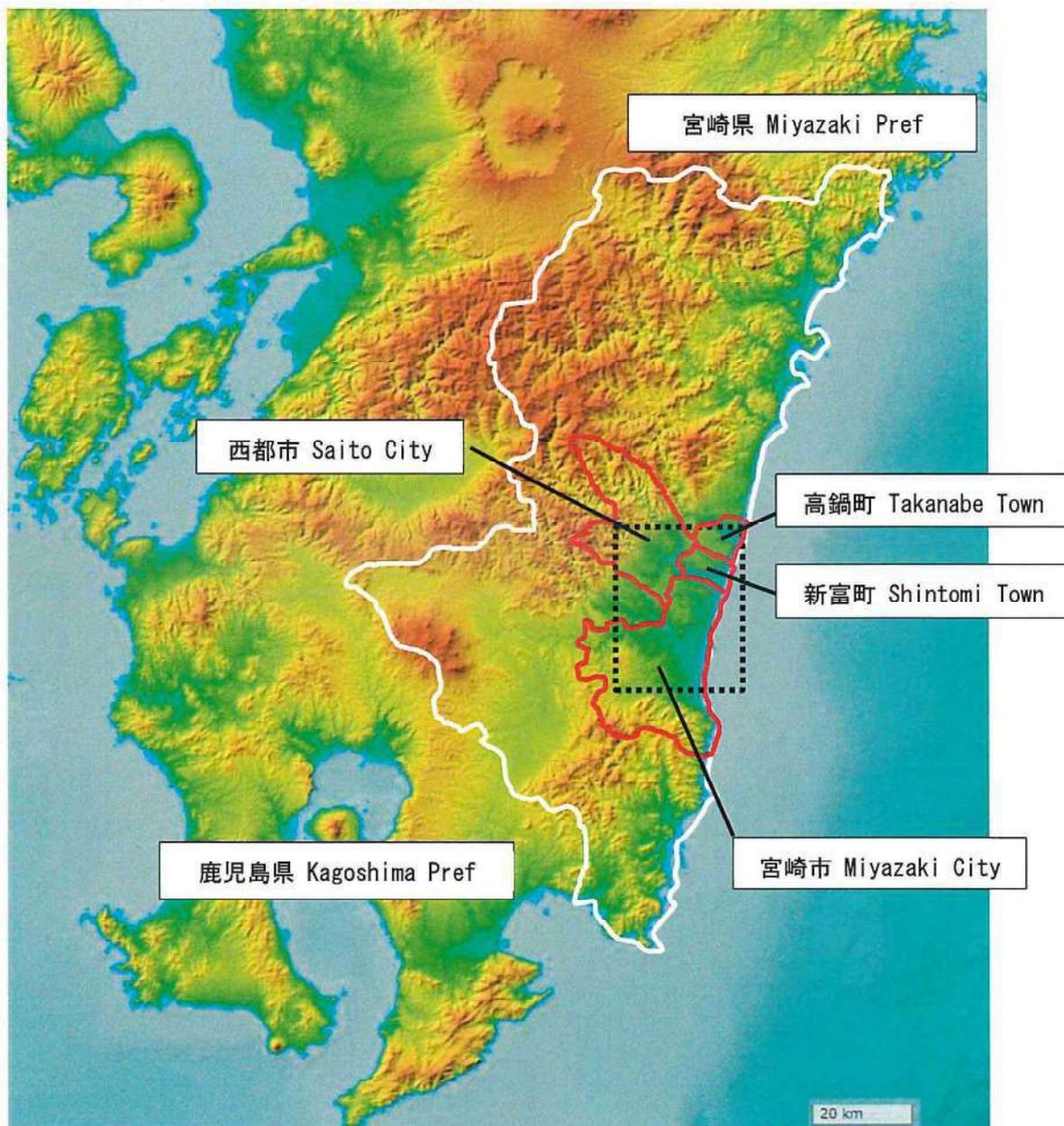


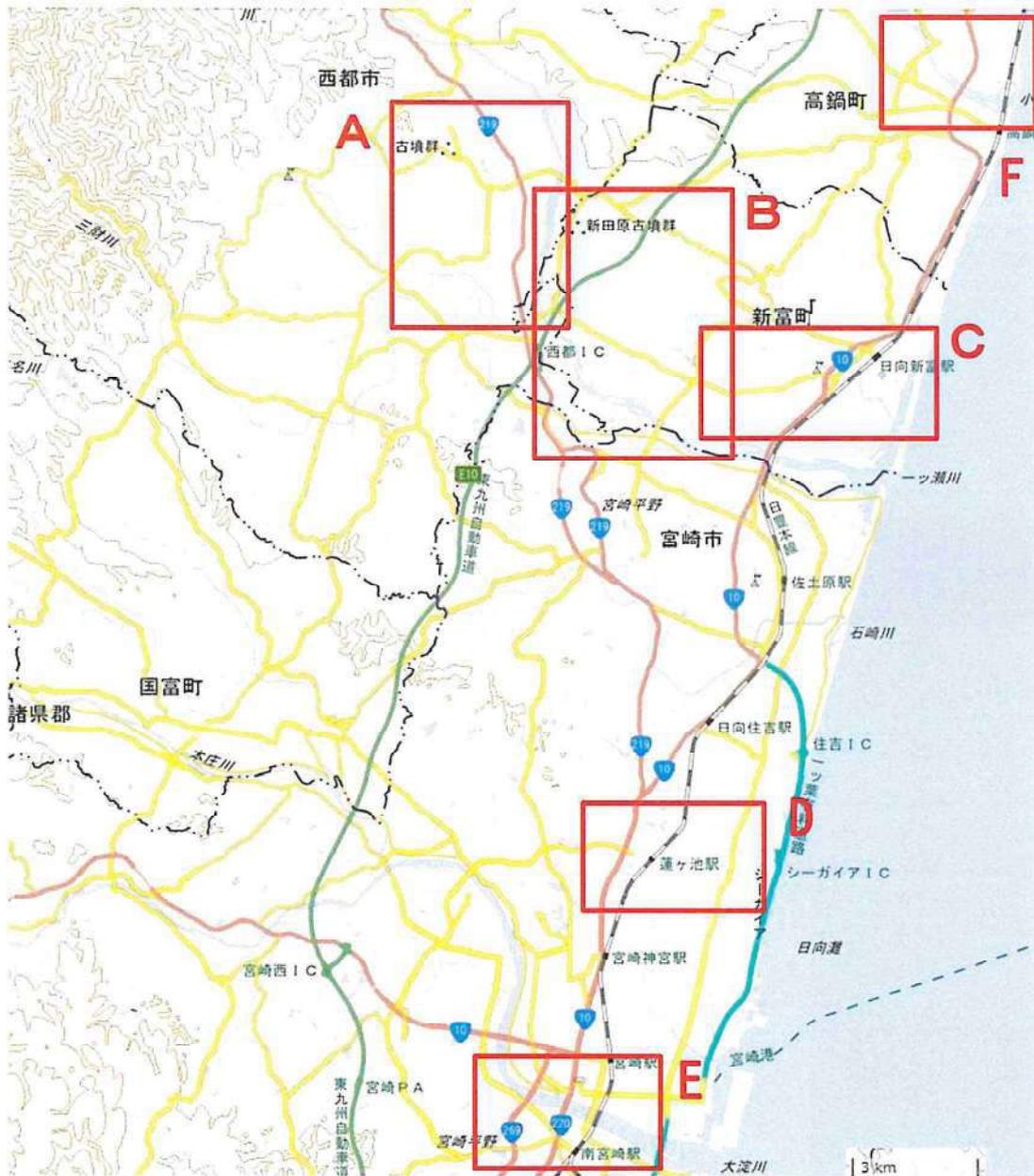
① 申請者	◎西都市、宮崎市、新富町、高鍋町	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
古代人のモニュメント —台地に絵を描く 南国宮崎の古墳景観—			
④ ストーリーの概要 (200字程度)			
<p>日本独自の形である前方後円墳という古墳が造られた時代。宮崎平野でも西都原古墳群を始め多くの古墳が造られました。列島各地であまた造られた古墳のある景観(風景)は、時の移ろいの中で様変わりしますが、宮崎平野には繁栄した当時に近い景観が今も保たれています。古墳の姿形が損なわれることなく、古墳の周りに建築物がほとんどない景観は全国で唯一です。</p>			
<p>古墳を横から、上から斜めから。いろいろな形と古墳のある景観を楽しんでみませんか？</p>		<p>台地に広がる壮大なパノラマ</p>	
			
<p>古墳が造られた当時に近い景観</p>		<p>台地に描かれた模様のような古墳の群れ</p>	
			
<p>古墳に差し込む陽光</p>		<p>古墳群の夕暮れ</p>	
⑤ 担当者連絡先			
担当者氏名			
電 話		FAX	
E-mail			
住 所			

市町村の位置図 (地図等)

【宮崎県西都市・新富町・宮崎市・高鍋町】

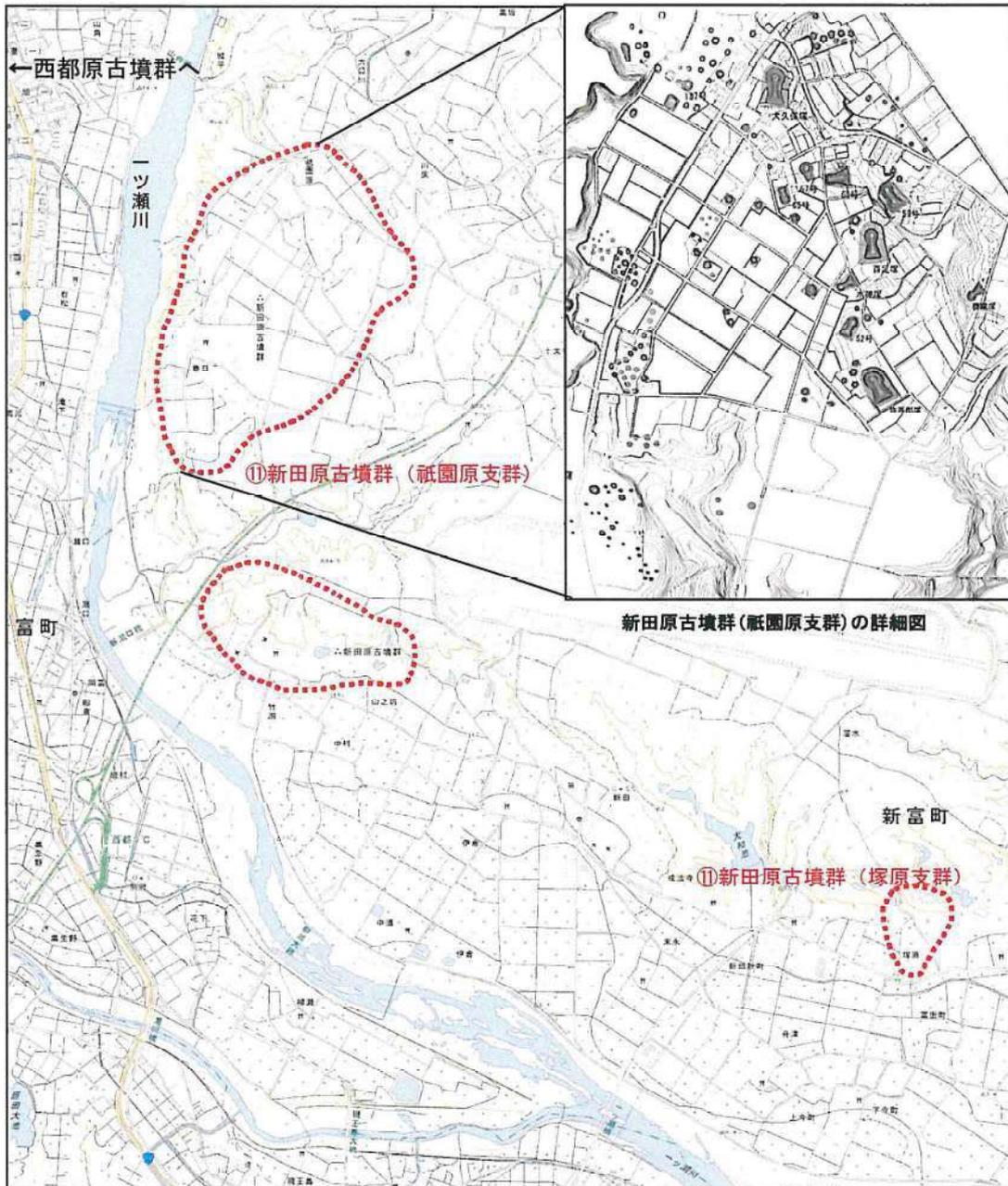


構成文化財の位置図(区割り図)





**B 新富町(新田原古墳群)**



C 新富町(新田原古墳群出土の埴輪)



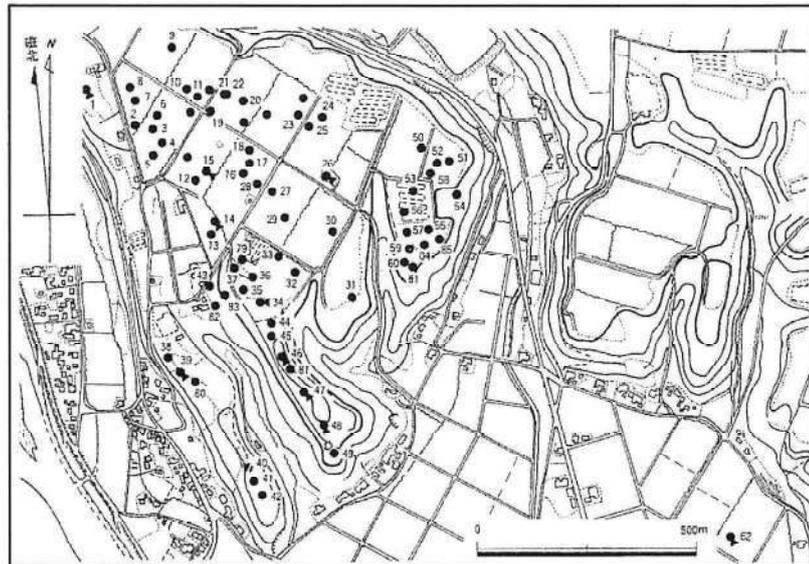
D 宮崎市(蓮ヶ池横穴群)



E 宮崎市(生目古墳群ほか)



F 高鍋町(持田古墳群ほか)



持田古墳群主要部の詳細図



## ストーリー

## 【「古墳」の世紀】

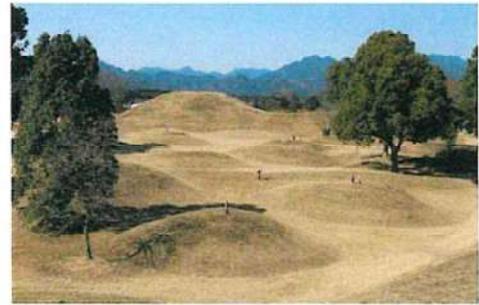
紀元3世紀から7世紀にかけての日本列島では、土を盛り上げたお墓“古墳”を造る文化が各地で栄えました。上から見た形が鍵穴のような「前方後円墳」、丸い「円墳」、四角の「方墳」など、その数なんと約16万基以上。当時の人々にとっての古墳とは、人物の地位や実力を大きさや形で表現した、いわば記念碑(モニュメント)でもありました。

そうした古墳を全て人力で築き上げた古墳時代とは、日本の歴史上初めての「土木工事ラッシュ」の世紀だったのです。

列島各地の古墳は、長い時の経過とともに、その多くは損なわれました。しかし、唯一、南国の宮崎平野の台地には、古墳の姿形が損なわれることなく、古墳の周りに建築物のほとんどない広大な景観が広がっています。そうした古墳景観の世界をたどってみましょう。

## 【造られたときに近い古墳景観 — 西都原古墳群 —】

西都原古墳群は宮崎平野を流れる一ツ瀬川西岸の台地上にあり、東西2.6km・南北4.2kmの範囲に300基以上が分布する全国屈指の大古墳群です。その特徴は、なんといっても古墳の形がよく残され、木々も生い茂ることなく、およそ1400年以上前の、古墳が造られた頃に最も近い景観が今も保たれていることです。



古墳が造られたときに近い景観(西都原古墳群)



土星のような形の古墳

ここには、前方後円墳が台地の縁に沿って立ち並び、前方後円墳の間には円墳がギッシリとすき間なく造られています。台地の小高い丘(高取山)の麓には、ひときわ大きな古墳が2つ。女狭穂塚古墳と男狭穂塚古墳は圧倒的な威容をたたえ、南九州の雄として君臨する勢力の大きさを表しています。

また、土星のような形の「鬼の窟古墳」は円墳の周りに土塁が巡る全国的にも珍しい形で、岩で出来た石室がぼっかりと口を開け、その内部の空間に入ることができます。さらに、数は少ないですが方墳も造られました。

豊かな自然環境のもと、交通の要衝であった西都原では、約400年の歳月をかけて古墳づくりに励みました。その結果、青い空と緑の山々を背景にした壮大なパノラマの古墳景観が生まれたのです。

そこは、見渡すかぎりに広がるたくさんの古墳という別世界。時間が止まったような空間を訪れる誰もが古代の人々になったような錯覚に陥ることでしょう。朝日夕日に輝き月夜の下で照らされる古墳は、昼間とは趣が異なって神秘的な雰囲気漂います。

小高い古墳の頂きや高取山の展望台に立てば、大きな鍵穴の間に無数の小さな水玉が見え、それはまるで台地に絵を描いたかのようです。秋冬の季節は古墳の色が緑から茶や赤色などになるので、春夏の頃とはひと味違う光景になります。



台地に描かれた模様のような古墳の群れ

## 【西都原古墳群の周辺に広がる様々な古墳景観】

西都原古墳群の他にも、建築物が周りにない古墳群が広がっています。

**持田古墳群** 小丸川北部の台地に広がる田園風景の中に、計塚や石舟塚、山の神塚と名付けられた前方後円墳とともに多くの円墳が造られており、日常の営みの中に古墳があることを感じられます。

また、東に向かって舌状にのびる台地上にも多くの古墳が点在しており、先端部にある前方後円墳周辺には、昭和初期に大規模な乱掘にあった歴史を憂い、古墳に眠る人々の霊を慰めるために造られた巨大石像群が寄り添います。

その前方後円墳の眼下に広がる田畑を越えて、東に遠く広がる日向灘の青海原の景色に、遥か古墳時代を生きた人々の抱いた海の向こうにある大王の国への憧れに思いを馳せることができます。

**新田原古墳群** 一ツ瀬川東部の台地上にあり、見渡す限りの広大な田畑の中に、水神塚、機織塚、百足塚などと名付けられた前方後円墳をはじめ、円墳や方墳が浮かぶように点在しています。

古墳時代の人々が造った古墳と、後世の人々が生み出した田畑が共にある景観は、古墳の存在を壊さずに開墾されたことで形作られました。そこには現在に続く古墳へ畏敬の念が根底にあったのです。また、百足塚古墳から出土した古墳時代の暮らしぶりをイメージさせるユーモラスな埴輪も見ることができます。

**生目古墳群** 大淀川河畔の小高い丘陵に広がるこんもりとした木立の群れ。実は、前方後円墳や円墳の今の姿です。その一角に、ひとときわ輝く前方後円墳が一つ。白い石で表面を覆った当時の姿に復元されたもので、その頂きに立てば、昔日の威容と造形美、古墳造りのエネルギーが体感できます。

生目古墳群には、古墳が造られてから悠久の時間を感じさせる森と化した古墳と当時の姿に復元された古墳が対照的に体感できる景観が備わっています。

**蓮ヶ池横穴群** 海辺に近い蓮の花咲く池のほとりにある、列島最南端の横穴墓です。丘陵の固い岩盤に横穴を掘って造ったお墓で、造り終わった後は、丘陵全体が照葉樹や落葉広葉樹の森林となり、忘れ去られた様にひっそりとたたずむ景観になりました。今も自然のままに時を重ねています。

### 【「古墳」の世紀を体感する】

多くの古墳があることで、女狭穂塚古墳に埋葬されているとされる木花咲耶姫の話を始め、古墳に関わる数々の神話や伝説、祭事などが生まれました。

また、生目古墳群（4世紀）→西都原古墳群・持田古墳群（5世紀）→新田原古墳群（6世紀）、さらに蓮ヶ池横穴墓群（6～7世紀）へと繁栄を極めた順に巡れば、南九州の豪族達の栄枯盛衰を感じることができ、副葬品や埴輪といった古墳からの出土品を鑑賞することで、古墳時代の生活を実感できます。

このような古墳の楽しみ方ができるのは、宮崎平野の古墳群だけです。さあ、ゆっくりと古墳探訪のひとときを過ごしてみませんか。



慰霊の為に造られた石像群(持田古墳群)



田園風景の中の新田原古墳群



ユーモラスな埴輪たち(新田原古墳群)



白垂に輝く古墳(生目古墳群)



自然と一体化した横穴墓群(蓮ヶ池横穴群)

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
①	西都原古墳群 <small>まいとぼる</small>	特別史跡	ストーリーの主題となる古墳景観の中核となる古墳群で、300基を超える古墳がある。古墳が造られた当時に近い景観が現在も保たれている全国唯一の史跡である。	西都市
②	女狭穂塚古墳 <small>めきほづか</small>	未指定	陵墓参考地の一つで、西都原古墳群における重要な構成要素。九州一の大きさ(墳長 176.3m)の前方後円墳で古墳時代中期(5世紀)における西都原古墳群の繁栄を端的に物語る古墳。	西都市
③	男狭穂塚古墳 <small>おきほづか</small>	未指定	陵墓参考地の一つで、西都原古墳群における重要な構成要素。帆立貝の平面形を有する古墳としては全国一の大きさ(墳長 176m)で、古墳時代中期(5世紀)における西都原古墳群の繁栄を端的に物語る古墳。	西都市
④	西都原古墳群第 206 号墳 (鬼の窟古墳) <small>おに いわや</small>	特別史跡	西都原古墳群最後の首長墓。古墳時代終末期に造られた直径 36m の円墳で、二重の濠と高い土塁が特徴。埋葬施設は巨石積みの横穴式石室(内部見学可能)である。古墳周辺は四季折々の花々が咲き乱れる。	西都市
⑤	高取山 <small>たかとりやま</small>	未指定	西都原古墳群の位置する台地の最高所にある小高い丘(標高 150m)。展望台からは古墳群を一望でき、古墳景観を体感できる重要な名勝地。	西都市
⑥	古墳への小径(記紀の道) <small>こみち きき</small>	未指定	女狭穂塚古墳・男狭穂塚古墳と市街地(都萬神社等)を結ぶ小径(約 4 km)でストーリーの主題を補完するもの。小径沿いには、古墳景観から生じた神話伝承に関する旧跡名勝や古墳への祭事を担う神社が立ち並ぶ。	西都市
⑦	西都原古墳群出土遺物	未指定	ストーリーの中核である西都原古墳群から出土した遺物群。三角縁神獣鏡や短甲に代表される宝器や武器・武器、装飾品等の副葬品は、西都原古墳群の特徴のみならず、古墳時代の歴史を具体的に可視化できる資料である。	西都市
⑧	西都原古墳群出土埴輪 子持家・船 <small>はにわ</small>	国重文	ストーリーを構成する西都原古墳群の第 170 号墳から出土した埴輪群。5軒の家が組み合う「子持ち家」は日本唯一の埴輪で、「船」は外洋の航海で交易する民のシンボルである。	西都市(複製品) ※現品は東京都台東区
⑨	日向国児湯郡西都原古墳 出土金銅製馬具 <small>ゆ</small>	国宝	ストーリーを構成する西都原古墳群周辺で出土した遺物で、朝鮮半島からもたらされた一揃いの馬具である。古墳時代後期(6世紀)における東アジアを舞台とした外交や交流を具体的に物語る資料。	西都市(同素材の復元品) ※現品は東京都世田谷区

⑩	西都古墳まつり	未指定	室町時代にさかのぼる「山陵祭」や「御陵祭」が原型となるお祭りや、西都原古墳群と人々のつながりを今に伝える催事である。毎年 11 月上旬の 2 日間に開催され、陵墓参考地の一般参拝も行われる。	西都市
⑪	新田原古墳群 <small>にゅうたばる</small>	国指定	ストーリーの中核となる西都原古墳群の周辺に広がる古墳景観エリアの一つ。207 基の古墳がある。古墳時代後期(6 世紀)の頃は南九州でも最大勢力を誇った。	新富町
⑫	新田原古墳群第 58 号墳 (百足塚古墳) 出土埴輪	未指定	ストーリーを構成する新田原古墳群の特徴を端的に示す出土品。墳丘に並べられた人物・動物・家・太鼓等の埴輪は西日本有数の質・量を誇り、畿内王権との関係性のなかで花開いた南九州の古墳文化の到達点を示す。	新富町
⑬	生目古墳群 <small>いきめ</small>	国指定	ストーリーの中核となる西都原古墳群の周辺に広がる古墳景観エリアの一つ。50 基の古墳がある。古墳時代前期(4 世紀)においては九州最大の規模を誇った。	宮崎市
⑭	生目古墳群出土遺物	未指定	ストーリーを構成する生目古墳群の特徴を端的に示す出土品。例えば、第 5 号墳出土の埴輪は胴体が筒のような形をした壺形埴輪で、全国的に珍しい独特の形状である。	宮崎市
⑮	蓮ヶ池横穴墓群 <small>はすがいけ</small>	国指定	ストーリーの中核となる西都原古墳群の周辺に広がる古墳景観エリアの一つ。横穴墓(家族の墓)は前方後円墳と並ぶ日本固有の墳墓である。古墳時代後期～終末期(6～7 世紀)にかけて約 80 基が山の斜面に掘られた。	宮崎市
⑯	宮崎市下北方地下式横穴 第 5 号出土品一括 <small>したきたかたちちかしきよこあな</small>	国重文 (考古資料)	ストーリーの主題である古墳景観に関連して、古墳に葬られた南九州の豪族達のいでたちとその生活ぶりを具体的に可視化できる資料。古墳時代中期(5 世紀)の地下式横穴墓から出土した副葬品で、武器・武具や生活用具および服飾品等で構成。古墳時代史が凝縮された資料でもある。	宮崎市
⑰	持田古墳群 <small>もちだ</small>	国史跡	ストーリーの中核となる西都原古墳群の周辺に広がる古墳景観エリアの一つ。85 基の古墳がある。古墳時代全時期(4～6 世紀)をとおして安定した勢力を保持した。	高鍋町
⑱	持田古墳群出土遺物	未指定 (有形文化財)	ストーリーを構成する持田古墳群を代表する出土品。副葬品の中でも青銅鏡や玉類の出土数は豊富である。長年にわたり畿内王権や朝鮮半島との結びつきがあった様子を示す。	西都市

⑱	持田古墳群第 15 号墳 (石舟塚) 出土石棺	未指定 (有形文化財)	ストーリーを構成する持田古墳群の石舟塚(第 15 号墳)から出土した阿蘇溶結凝灰岩で造られた構成文化財唯一の石棺。棺の大きさや道具(鉄のみ)の痕跡、棺内部の様子などを間近で観察できる貴重な資料。	高鍋町
㉓	たかなべだいらし 高鍋大師	未指定 (有形文化財)	持田古墳群と共にストーリーを構成する巨大石像群。昭和初期の持田古墳群の大規模な乱掘に心を痛めた故岩岡保吉氏が私財をなげうち、古墳に眠る人々を慰霊するために半生をかけて造像した。地域住民が持田古墳群を大切に思う心が表現されている。持田古墳群とともに県の観光遺産に認定されている。	高鍋町

(※1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。

(※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること(例:国史跡、国重文(工芸品)、県史跡、県有形、市無形等)。

(※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること(単に文化財の説明にならないように注意すること)。

(※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること(複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること)。

## 構成文化財の写真一覧(1)

### 【①さいとぼる西都原古墳群】



① -1 宮崎平野の台地に広がる古墳群のパノラマ



① -2 台地の縁にならぶ前方後円墳



① -3 見渡すかぎりに古墳が広がる景観

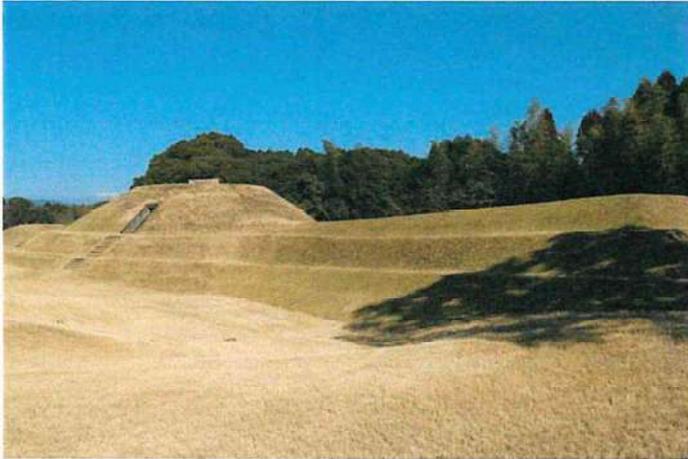


① -4 丸い形の古墳(円墳)



① -5 四角い形の古墳(方墳)

構成文化財の写真一覧(2)



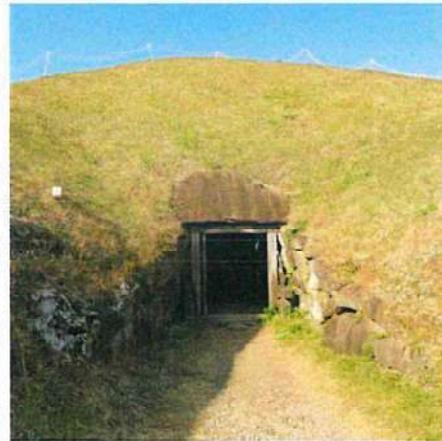
① -6 横から見た前方後円墳



① -7 古墳の中(埋葬施設)を探検



④ -1 土星のような古墳(鬼の窟<sup>いわや</sup>古墳)



④-2 ぽっかりと口を開ける入口



① -8  
台地に描かれた模様  
のような古墳の群れ  
(空から見下ろした景色)

構成文化財の写真一覧(3)



① -9 赤や黄色に染まる古墳(晩秋)



① -10 行く手をはばむようにそびえる古墳



② めさほほ 狭穂塚古墳(左) ③ おさほほ 狭穂塚古墳(右)



⑤ たかとりやま 高取山 (初夏)



⑥-1 古墳への小径(記紀の道)



⑥-2 古墳への小径(道端にある児湯の池)



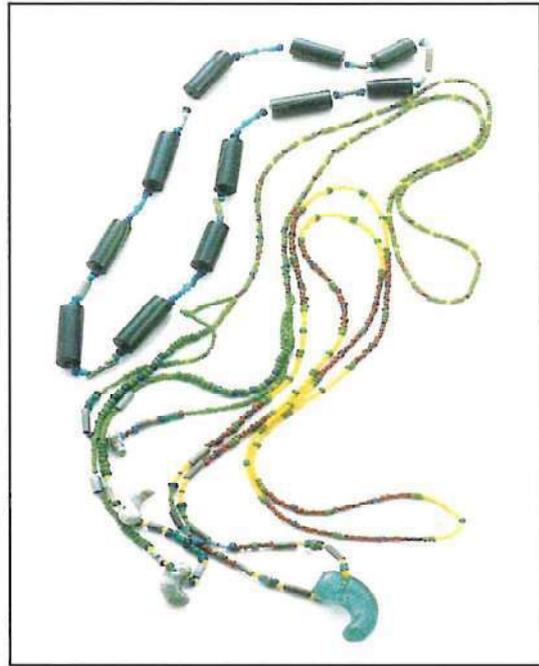
⑥-3 古墳への小径  
(女狭穂塚古墳とゆかりの深い都萬神社)

構成文化財の写真一覧(4)

【⑦ 西都原古墳群出土遺物】



⑦ -1 複雑な文様が施された青銅製の鏡



⑦ -2 色彩豊かなガラスと石の首飾り



⑦ -2 完全な形で残る鉄製のよろい



⑧ 西都原古墳群出土埴輪 子持家こもちいえ



⑨ 日向国児湯郡西都原古墳群出土  
金銅製馬具(写真は鞍金具)



⑩ 西都古墳まつり

## 構成文化財の写真一覧(5)

### 【にゆうたばる⑪新田原古墳群】



⑪-1 田園風景に広がる古墳のパノラマ



⑪-2 精美な形の前方後円墳(百足塚古墳)  
むかてづか



⑪-3 緑の畑地に浮かぶ前方後円墳

### 【⑫新田原古墳群出土遺物】



⑫ 表情豊かな人物の埴輪(百足塚古墳)

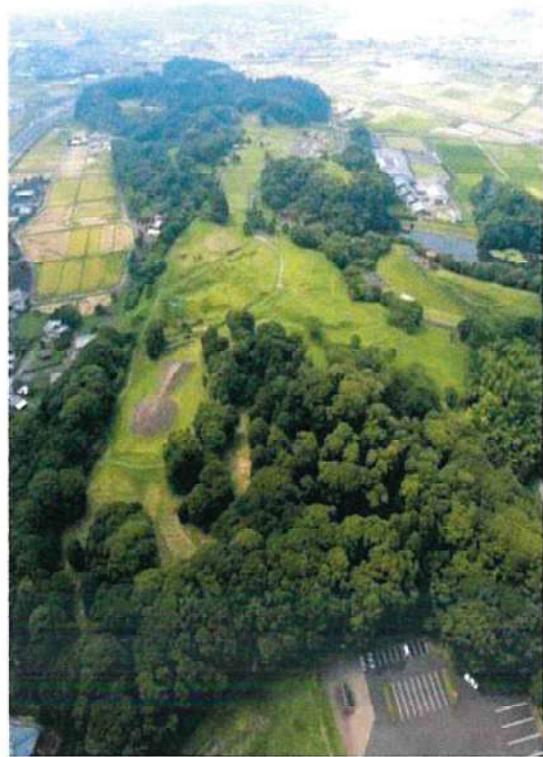


## 構成文化財の写真一覧(6)

### 【<sup>いきめ</sup>⑬生目古墳群】



⑬ -1 築造当時の姿に復元された前方後円墳



⑬ -2 丘陵の自然に包まれた古墳群

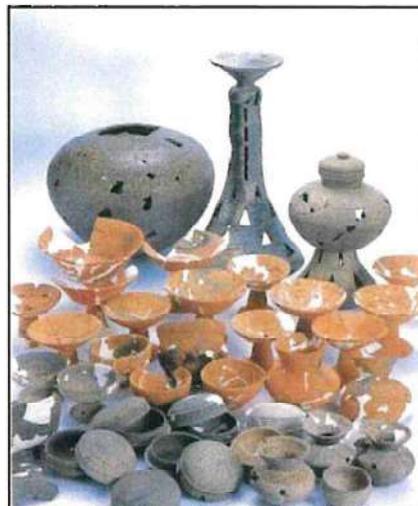


⑬ -1 森と化した前方後円墳

### 【⑭生目古墳群出土遺物】



⑭ -1 独特な形の埴輪



⑭ -2 古墳に供えられた土器

構成文化財の写真一覧(7)

【<sup>はすがいけ</sup>⑮蓮ヶ池横穴群】



⑮-1 自然と一体化した横穴の群れ



⑮-2 岩盤をくり抜いた横穴の内部から入口を見る



⑮-3 横穴群の前で咲き誇る蓮の花

【⑯宮崎市下北方地下式横穴第5号出土品】



⑯-1 金で作られた耳飾り



⑯-2 鉄製の刀や鍬<sup>やじり</sup>など



⑯-3 古墳時代の生活を偲ばせる豪華な副葬品

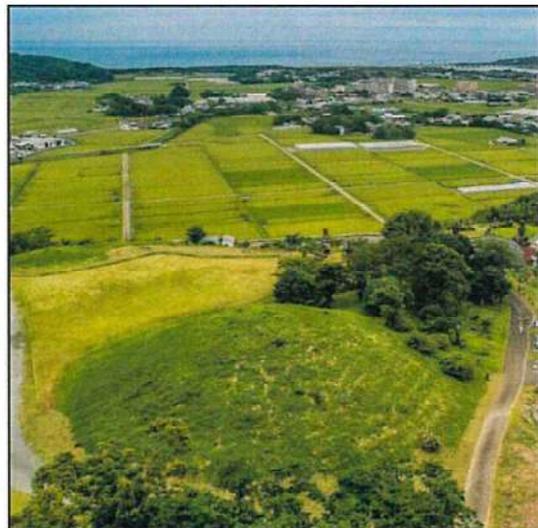
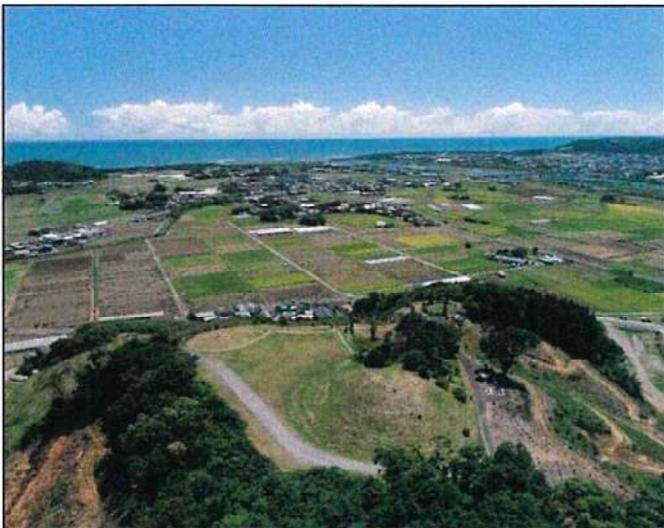
構成文化財の写真一覧 (8)

【⑰持田古墳群】

⑰-1 台地に点在する古墳群



⑰-2 日向灘を望む 48号墳



## 構成文化財の写真一覧 (9)

【⑩持田古墳群出土遺物】青銅鏡や環頭大刀飾などの豊富な出土遺物

⑩-1 計塚(1号墳)出土盤龍鏡



(所蔵及び写真提供：宮崎県立西都原考古博物館)

⑩-2 計塚(1号墳)出土獸文縁帯鏡



(所蔵及び写真提供：宮崎県立西都原考古博物館)

⑩-4 山の神塚(26号墳)出土三葉環頭大刀柄部



(所蔵及び写真提供：宮崎県立西都原考古博物館)

⑩-5 持田古墳群出土馬鈴



(所蔵及び写真提供：宮崎県立西都原考古博物館)

## 日本遺産を通じた地域活性化計画

認定番号	日本遺産のタイトル
67	古代人のモニュメントー台地に絵を描く 南国宮崎の古墳景観ー

## (1) 将来像 (ビジョン)

## [地域のあるべき姿]

宮崎平野の台地に広がる数々の古墳群は、日本の誇るべき歴史的・文化的な景観をいまに伝える。それは、長い年月にわたり受け継がれた古墳を保護する信仰心の賜物であるが、そのような古墳景観が全国的にも希少的な価値であることを、宮崎県のみならず、国内外へ積極的に周知し、認知度の向上を図る必要がある。

この景観をより多くの人々に紹介し、観光客や研究者が訪れることで、その歴史的・文化的価値を広く認識されることが望ましい。そのためには、自治体による構成文化財の調査及び整備を積極的に推進しつつ、地域住民と連携し、古墳景観の保全や活用に取り組むことで、地域の活性化や文化の継承に繋げること、また、教育活動やイベントなどを通じて、古代人の生活や文化に触れる機会を提供し、次世代に古墳景観の価値を伝える取組も重要である。地域の歴史や文化に焦点を当てたツアーやイベントを開発し、構成文化財を含めた観光ルートの提案を行うことや、地域と連携した体験型のプログラム・ワークショップなどを企画することで、来訪者が古墳景観の魅力をより深く理解し、その価値を実感する機会を提供する必要がある。

また、民間事業者等との連携により、地元の食材や工芸品などの地域資源と日本遺産のブランド力をマッチングさせた旅行商品の造成や商品開発、構成文化財に関するイベントやお祭りなどとの連携を積極的に図ることで、観光客・宿泊客の増加などによる、地域経済の振興を目指す。

これらの取組により、南国宮崎の古墳景観は、地域社会との連携を深めながら、持続可能な形で文化と観光の好循環を図り、その魅力を伝えていくとともに、南国宮崎の認定地域が「古墳群のあるまち」として活性化する。

## [地域の長期的構想における位置づけ]

構成市町である西都市・宮崎市・新富町・高鍋町では、それぞれの長期総合計画において古墳群を地域資源と位置づけ、長期的な展望を持って観光振興等への活用を図っている。

## ○西都市

- ・第五次西都市総合計画前期基本計画 2021 (R3) 年度ー2024 (R6) 年度 (改定予定) 2025 (R7) 年度に策定する後期計画において、「基本施策 2ー5 観光の振興」、「基本施策 4ー4 歴史・文化が映えるまちづくり」の主要施策に日本遺産事業による活性化策を記載予定。
- ・西都市観光ビジョン 現行 2021 (R3) 年度ー2024 (R6) 年度 (策定予定) 2025 (R7) 年度策定時に日本遺産事業による活性化策を記載予定。

・西都市教育施策

文化財の保護を基本に、学校教育、社会教育をはじめとする生涯学習の場や地域づくりに有効に活用できるよう、文化財情報等の提供に努め、郷土愛と貴重な文化財を愛護する思想の普及、高揚を図ります。

2024（R6）年度以降、日本遺産事業による活性化策を随時記載予定。

○宮崎市

・第5次宮崎市総合計画 2018（H30）年度－2024（R6）年度

基本計画第5章 基本目標2 重点項目2-3

(2)主要施策 3文化芸術の振興や市民スポーツの推進

「南九州の古墳文化」として、世界文化遺産登録を目指す国指定史跡「生目古墳群」について、地域の機運醸成や認知度向上を図るため、イベントや講演会等を実施します。

・第4次宮崎市観光振興計画 2020（R2）年度－2024（R6）年度

個別施策2-3 地域の神話や文化を生かした観光資源の磨き上げ

日本遺産に認定された生目古墳群や蓮ヶ池横穴群などを活用した周遊コースの造成など、全国に誇る文化財の活用を図ります。

○新富町

・第6次新富町長期総合計画 2022（R4）年度-2026（R8）年度

生涯を通して活躍できるまちというビジョンのもと、地域住民の方々や関係機関と連携して、日本遺産に認定された新田原古墳群の活用を努めることを策定している。また、日本遺産構成文化財を含む文化財の整備活用によって、小中学校の「ふるさと学習」の推進や滞在型観光による町外からの訪問機会の創出を図っていく。

○高鍋町

・第6次高鍋町総合計画後期基本計画 2021（R3）年度-2024（R6）年度

「まちづくりの基本目標 1-1（1）歴史と伝統・文化の保護と活用」において構成文化財である持田古墳群の整備に取り組むことを記載。

・2025（R7）年度以降、「持田古墳群保存管理計画」を策定予定。

(2) 地域活性化計画における目標

※各目標に対し、複数の指標を設定可

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること						
指標①-A：日本遺産関連施設（①西都原考古博物館・②生目の社 遊古館・③新富町総合交流センター・④高鍋町歴史総合資料館）の来館者数						
年度	実績			目標		
	2021	2022	2023	2024	2025	2026
数値	133,360	121,342	159,464	170,000	180,000	190,000
	①60,907	①63,395	①67,440	①77,800	①87,800	①97,800
	②16,401	②21,865	②26,800	②26,800	②26,800	②26,800
	③54,982	③34,695	③62,836	③63,000	③63,000	③63,000
	④1,070	④1,387	④2,388	④2,400	④2,400	④2,400
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	日本遺産の構成文化財に触れることができる関連施設での来館者数を数値（毎年10,000人増加）として設定する。日本遺産ストーリーに触れるためのコーナーや機能を拡充するとともに、来館者アンケートなどを実施し、日本遺産の認知度や理解度、満足度の向上を図る。					

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること						
指標①-B：構成文化財である西都古墳まつりのたいまつ行列参加者及び来訪者数						
年度	実績			目標		
	2021	2022	2023	2024	2025	2026
数値	雨天により中止	300人 40千人	600人 40千人	600人 41千人	600人 42千人	600人 43千人
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	西都原古墳群で開催される「西都古墳まつり」は、毎年11月第1土日に開催される一大イベントであり、県内外から多くの観光客が訪れている。参列者（定員600人）が記紀の道を通って御陵墓前広場まで繰り広げるたいまつ行列や炎の祭典は幻想的であり、多くの人を魅了している。また、隣接する構成文化財男狭穂塚古墳及び女狭穂塚古墳は、西都古墳まつりの2日目の日曜日に、年に1度の特別参拝が行われている。その他の構成文化財も点在しており、コスモス満開のなかで日本遺産の魅力を体験できると考えて指標として設定する。					

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること						
指標②－A：地域住民と小中学生が連携して構成文化財の保存・伝承活動に取り組む事業数						
年度	実績			目標		
	2021	2022	2023	2024	2025	2026
数値	2	2	2	3	3	4
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	構成文化財の保存や伝承に取り組む地域住民や地域づくり協議会等の活動に対して、地元の小中学生と連携した事業が継続的に展開されている。これらの活動の支援や新たな取組を進めることで、シビックプライドの醸成を図る。このため、地域住民と小中学生が連携した構成文化財に関する取組の事業数を指標として設定する。					

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること						
指標③－A：「古代人のモニュメント」を活用した旅行商品数						
年度	実績			目標		
	2021	2022	2023	2024	2025	2026
数値	0	0	0	1	1	3
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	当協議会では、令和8年度に日本遺産サミットの開催を控えており、宮崎大会では宿泊施設不足や交通アクセスの脆弱性などにより旅行業者や交通事業者との連携が必須となっている。開催時にはエクスカージョンの設定も必要であることから、継続的に展開できるような旅行商品を開発し、認定地域での経済効果が生じることを目指す。					

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④－A：日本遺産構成文化財関連施設における講演会・考古博講座、体験・実験講座の開催数						
年度	実績			目標		
	2021	2022	2023	2024	2025	2026
数値	-	15	19	20	20	20
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	日本遺産関連施設（①西都原考古博物館・②生目の社 遊古館・③新富町総合交流センター・④高鍋町歴史総合資料館）を活用した展覧会、講座を継続的に開催し、その保存・活用を図るとともに、来館者が日本遺産ストーリーを体験することを目指す。					

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－A：認定地域（2市2町）の観光客入込数						
年度	実績			目標		
	2021	2022	2023	2024	2025	2026
数値	419.5万人 西都 598千 宮崎 3,218千 新富 164千 高鍋 215千	603.7万人 西都 728千 宮崎 4,810千 新富 236千 高鍋 263千	集計中	701.9万人	751.0万人	800.0万人
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	宮崎市以外の地域においては、宿泊施設が充足していないため、観光客入込数を指標とした。新型コロナ以前の令和元年度認定地域（4自治体）での観光入込客数が793.7千人であったことから、令和8年度の目標値を800.0万人と設定。2022（令和4）年度を基準として、単年度増加人数（491千人）を加算した数値を目標として設定する。					

### (3) 地域活性化のための取組の概要

#### 【現状】

「古代人のモニュメントー台地に絵を描く南国宮崎の古墳景観ー」は平成 30 年度に日本遺産認定を受けて、現在、西都市・宮崎市・新富町・高鍋町に所在する 20 の文化財で構成されている。主に、古墳群と出土遺物が中心で、当時に近い景観が今も保たれている点特徴的である。

各構成文化財に関する地域行事やお祭り、イベントにおいて、主催する民間団体や実行委員会と連携して事業実施を行うとともに、PR ブースや紹介コーナーを設置するなどして日本遺産の認知度向上に向けて取り組んでいる。認定地域の各拠点施設においては、日本遺産の構成文化財の展示や紹介するコーナーの設置のほか、各種講座や体験・実験講座が随時開催されており、来館者に対して日本遺産ストーリーを体験する機会が提供されている。

#### 【成果】

構成文化財が日本遺産に認定されたことにより、各古墳群の保存会や地域の人々にとって地域の宝としての自覚が強まり、古墳景観の保全や活用に向けた取り組みが活性化していると感じており、特に、記紀の道や蓮ヶ池横穴群などでは、地域住民と小学生が連携した事業が継続的に展開されている。

また、各地域での案内看板サインや当協議会のホームページ、各拠点施設での情報発信など、地域住民や観光客が日本遺産の構成文化財であることを視覚的に理解できるような素材を整備するとともに、協議会 HP や SNS などによる情報発信を随時行っている。

また、古墳景観の素晴らしさを PR するために制作された「古墳でこーふん健康体操」についても、NPO 法人や高校生、小学生による積極的な PR 活動・動画配信等により、各地域にも広まりつつあり、認知度は徐々に向上している。

#### 【課題】

構成文化財の半数を占める西都原古墳群では、季節の花が満開を迎えるシーズン（春：桜・菜の花、夏：ひまわり、秋：コスモス）に観光客が集中するが、この観光客に日本遺産の認知度向上を図るとともに、他の構成文化財に誘導する手段、また年間を通した総合的な PR のためのコンテンツづくりが必要である。また、認定地域のうち宮崎市以外の自治体では、宿泊施設が充足しておらず、交通アクセスも脆弱なため、広域にある文化財を周遊するには自動車での個人周遊が主で、通過型の観光となっている。その方々の滞在時間を延ばし、認定地域の魅力が伝えられるような取組、ツアー造成が必要となっている。

認定地域の住民にとって、日常にある古墳群が「日本遺産認定」となったことの認知度はまだまだ高いとは言えず、地元愛の醸成の向上に向けた取組も課題となっている。

協議会運営は加盟自治体の負担金に依存しており、収益が確保できなかったため、自走できるよう物販や企業協賛等の確保・多角化の必要性がある。

#### 【今後の取組】

○取組の柱 1

## 協議会及び関係団体との連携の強化（組織整備、組織強化、人材育成）

新型コロナの影響により、各市町の担当者、幹事会及び総会などにおいて、定期的な会議が出来ない状態が続いていたが、これら、協議会及び関係団体との連携強化を構築するため、自治体関係部局内での庁内連絡会議を定例化するとともに、定期的な担当者会を開催し、情報の共有や連携の強化を進めていく。また、認定地域の特徴的な分野を延ばしていくため、協議会の構成幹事団体である商工会議所や観光協会との関係を密に展開し、各団体の持つノウハウを積極的に活用していく。これまで構成文化財関連イベントで連携してきた民間事業者及び各実行委員会との強化を図り、事業のマンネリ化を解消し、各構成文化財の積極的な活用と地域活性化にかかる事業展開の検討を進める。

当協議会では、各自治体の負担金による運営に頼っており、収益事業を展開していないため、持続可能で有益な協議会運営が見込めていない状況にある。今後は、まちづくり団体や法人パートナー等を巻き込み、行政中心の運営体制から官民一体となった体制への転換を図り、地域ブランディングや収益確保が出来るような組織づくりに取り組む。

令和8年度日本遺産サミット開催内定に向けた組織体制整備を進める必要があり、開催場所と期日等の検討、古墳景観の魅力と価値を提供する地元プログラムの開発等について、民間企業や地域プロデューサー及び地域プレイヤーの探索・組織化・育成を並行して取り組んでいく。

### ○取組の柱2

#### 古墳景観の歴史的・文化的価値の周知と体験（基盤整備、観光振興）

令和6年度には西都原ガイダンスセンターが改修工事となり、リニューアルオープンする。また、西都原考古博物館も開館20周年を記念して展示コーナーの一部リニューアルや西都原古墳群出土物の復元・展示が行われるため、機能拡充により古墳景観の歴史的・文化的価値の周知と体験の幅が広くなり、来場者及び観光客の増加が見込まれる。これを契機に、情報発信機能や日本遺産ストーリー体験の充実を図るとともに、南国宮崎の古墳景観が全国的にも希少的な価値であることを積極的に周知して認定度向上を図る。

また、認定地域の広範囲に広がる古墳群を周遊させるためのツールとして、電動キックボードなどを活用したアクティビティの要素を付加することで、観光客の滞在時間の延長を確保したり、デジタルスタンプラリーなどによる構成文化財を周遊するような新たな仕組みづくりを検討していく。

### ○取組の柱3

#### 地域への誇りと愛着【シビックプライド】の醸成（普及啓発、情報発信）

各自治体の小中学校教育活動の一環として取り組まれている地域との協働学習、総合授業、地域学などの授業のなかで、日本遺産に関する普及啓発活動の取組を取り入れる。また、日本遺産関連施設等を活用したイベントなどを通じて、子どもだけでなく大人も日本遺産をはじめとした地域の歴史や文化に触れる機会を提供していく。

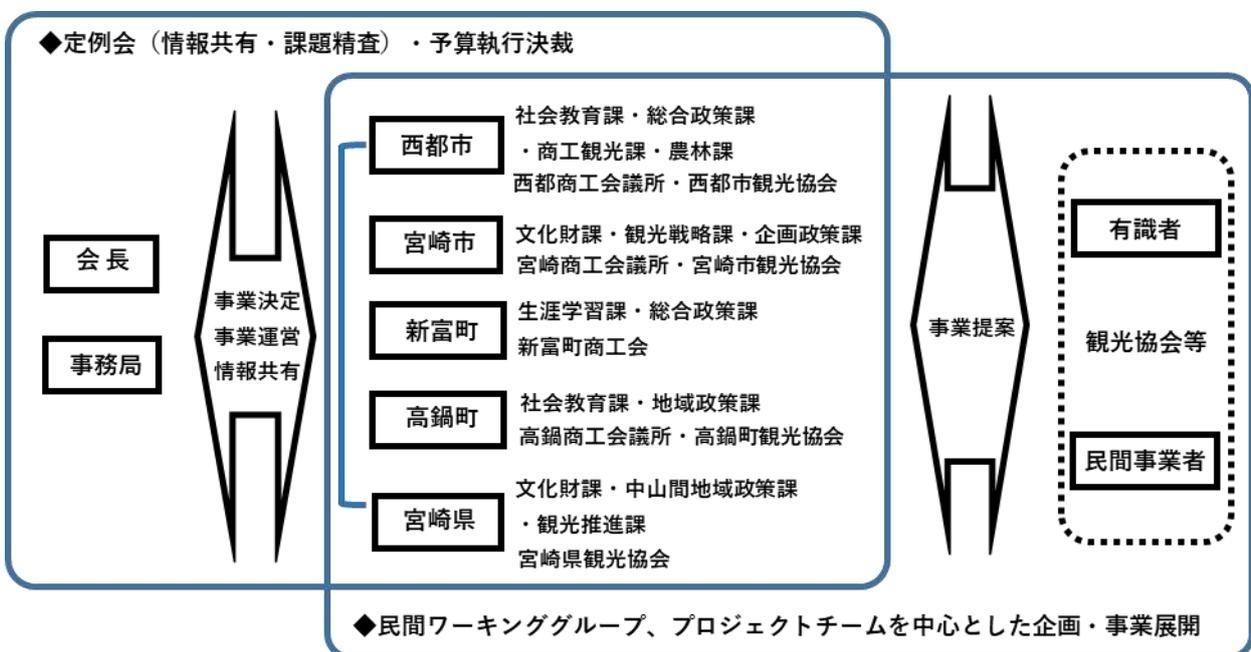
地域住民と小中学生が連携して構成文化財を保存・継承していく活動は、大変重要な取組であるため積極的に支援していくとともに、古墳景観の保全や活用へ向けた新たな取組についても模索する。

情報発信においては、協議会 HP や日本遺産ポータルサイト、協議会の Instagram 等を積極的に活用して古墳景観の素晴らしい情景やフォトスポット、イベント情報等を高い頻度で更新することで、多くのフォロワー等に向けた日本遺産の情報提供を行う。また、各市町や日本遺産関連施設、観光協会・まちづくり団体等、官民連携での SNS 情報発信に取り組む。

#### (4) 実施体制

○協議会名称：日本遺産南国宮崎の古墳景観活用協議会

○構成団体：西都市、宮崎市、新富町、高鍋町、西都商工会議所、宮崎商工会議所、新富町商工会、高鍋商工会議所、一般社団法人西都市観光協会、公益財団法人宮崎市観光協会、認定 NPO 法人高鍋町観光協会、宮崎県、公益財団法人宮崎県観光協会



協議会構成団体の各自治体内の関係部局で庁内連絡会議を設置し、構成文化財の保存・整備を行うとともに、情報共有や問題点の抽出等を行った上で課題整理・今後の方向性についての検討を行う。また、構成文化財を活用した観光施策や地域活性化策については、イベント実行委員会との連携により既存事業及び日本遺産事業との相乗効果が図れるような戦略を協議し、専門スキルを有する構成団体の商工会議所や観光協会との連携のもと、新規事業も検討しながら推進していく。協議会を構成する 22 の幹事団体に対しては、年 2 回の幹事会において、事業の進捗状況及び報告等を行うとともに、事業推進のためのアドバイスをいただく。

新規事業や商品開発、旅行商品開発、インバウンド対応、自主財源確保への取組等については、有識者や民間事業者を含めた民間ワーキンググループでの連携と情報共有により事業提案をいただくなど、今後も関係性を強化しながら継続的に各団体の強みを活かした連携事業を推進していく。

#### ◆民間 WG

- 各観光協会 ○一般財団法人こゆ地域づくり推進機構
- 一般社団法人まちづくり西都 KOKOKARA ○NPO 法人さいと旗たて会
- NPO 法人いさいと ○NPO 法人輪プロジェクトみやざき
- 公益財団法人宮崎文化振興協会 ○株式会社宮崎カーフェリー
- 餃子のまち高鍋推進協議会 ○交通観光系事業者

#### ◆プロジェクトチーム

上記 WG メンバーにより、令和 8 年度日本遺産サミット宮崎大会に向けた具体的な検討に向けたプロジェクトチームを組織する。

○今後の実施体制としては、認定地域内のまちづくり団体や法人パートナーを巻き込み、官民一体となった組織のもとでの運営を目指し、行政は構成文化財の保存や整備、地域との連携、学校を通じた普及啓発等を推進し、日本遺産ストーリーを活かした観光事業化や地域活性化に関しては民間活力を積極的に活用するための民間ワーキンググループを組織して、事業展開する。

#### [人材育成・確保の方針]

各自治体の小中高の学校で実施されている地域の特性を生かした教育（地域学・みらい塾等）において日本遺産ストーリーを学ぶ場を提供することや、地域活動団体と小学校による構成文化財を活用した体験や学びで、地域の歴史・文化に興味や愛着を持つ人材を育成する。また、今後は県内で地域創生を学ぶ大学生やまちづくり団体で活動する学生などとの連携を図り、若年層目線からの日本遺産を活用した地域活性化の検討を行う。

令和 5 年度に日本遺産九州沖縄連携の体制が整ったことから、互いの地域における課題や現状を共有する場を創出し、協議会内での知識向上と人材育成を図る。

#### (5) 日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

協議会の組織体制については、現行の幹事団体である各自治体の教育委員会及び市長部局（観光担当課、総合政策担当課）、観光協会や商工会議所及び商工会など、すでに幅広い分野において構成されているため、現在の協議会体制を継続しながら、発展的に事業を推進していく。定期的に事務局内会議と各自治体庁内会議を経て、担当者会議を開催することにより、地域間での認識の共有をより強めていき、観光協会や商工会議所及び商工会のそれぞれの専門分野での強みを生かしたアイデアと連携したイベントなどにより日本遺産の取組を行っていく。また、協力関係にあるまちづくり団体やイベント実行委員会、交通事業者などの民間団体と今まで以上に連携を図ることで、組織力を強化し、取り組んでいく。近年、高校生や地域創生を学ぶ大学生が地域活性化やまちづくりをテーマとして、自ら企画運営したイベントやボランティア活動に取り組むケースが多く見られる。こういった若い世代と連携して斬新なアイデアを取り入れることで、日本遺産を活かした新しい取組を推進していきたい。

協議会では、これまで文化庁補助金と各自治体の負担金を財源として事業を実施してきた。ノベルティグッズや日本遺産関連商品を開発し、周知やプレゼント手段として活用してきたが、販売には至らなかった。また、クラウドファンディングの活用を計画していたが、こちらも実施に至っていない。結果、各自治体からの負担金のみで事業を実施してい

るため、組織の自立・自走のためには負担金以外の財源の多角化を図る必要がある。そのため、製作したノベルティグッズや日本遺産関連商品の販売及び新たな日本遺産関連商品の開発に向けて取り組み、収益を生み出す方法を構築するとともに、国や県の補助金の活用ができる事業にも取り組んでいく。地域企業に対しては、ファンになっていただけるよう日本遺産の魅力を発信し、協賛金の獲得を目指す。さらに、古墳群の保護やイベント、日本遺産ストーリーを体験するためのプログラム等に対するクラウドファンディングやふるさと納税を活用するなど、必要な財源の確保を図り、組織の自立と自走に取り組んでいく。

#### (6) 構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

##### 日本遺産の保存と活用

各構成文化財については、各自治体及び県の教育委員会予算において、保存と整備が計画的に行われている。また、西都原ガイダンスセンターリニューアルや西都原考古博物館の一部改修も計画されていることから、地域住民や観光客にとって日本遺産ストーリーに触れる機会の幅が広がるため、日本遺産の認知度向上と認定地域の構成文化財を周遊するような仕組みづくりが必要である。

構成文化財の保存と活用を図るためには、地域住民や子ども達が文化財に対して愛着と誇りを持ち、構成文化財の歴史や伝承についての知識を習得し、日本遺産ストーリーをしっかりと理解することが必要である。このため、小中学校での教育現場や生涯学習、文化振興などのさまざまな場面において構成文化財に関する学習の機会を提供するとともに、日本遺産関連施設での講座や学習でのプログラムを体験することで、日本遺産ストーリーを習得することに繋がる。また、居住地域に存在する構成文化財に関する知識だけでなく、シリアル型を活かしたお互いの地域を知る取組も必要と考える。

当協議会においては、地域住民と小学生が連携して構成文化財（西都市：記紀の道、宮崎市：蓮ヶ池横穴群）の保存と継承に積極的に取り組んでいる地域があり、このモデルとなる地域の活動を支援し、その活動の情報を発信することで、他の構成文化財の保存活動と活用に繋げていく。

##### 好循環の創出に向けた取組

今後の日本遺産事業を進めていくためには、財源の確保が第一であり、これまで取り組めなかったクラウドファンディングやふるさと納税等を活用した収益確保に取り組む。また、民間事業者と連携して当協議会のロゴマークを活用した商品開発やグッズ販売、オリジナルキャラクター制作などにより、親しみやすく、周遊したくなるような環境の整備を行う。

さらに、好循環の創出のためには情報発信も大変重要であり、古墳景観の素晴らしい情景やイベント情報など積極的に発信し、日本遺産ストーリーに触れたいくなる、体験したいくなるような協議会 HP の運用と SNS による投稿を行う。

令和8年度に日本遺産サミットの開催が予定されていることから、これまで以上に旅行業者及び交通事業者等との連携を図り、日本遺産ストーリーを体感するためのツアーの造成を行う。

(7) 地域活性化のために行う事業

(7) - 1 組織整備

(事業番号 1 - A)

事業名	協議会及び関係団体との連携の強化		
概要	協議会を構成する自治体と幹事団体との連携強化及び民間団体との事業連携		
	取組名	取組内容	実施主体
①	行政(4自治体)内の関係部局での庁内連絡会議の設置	協議会(シリアル)で組織する自治体の関係部局(文化財・観光等)内での庁内連絡会議を随時行い、各構成文化財の活用及び地域活性化にかかる事業展開を検討する。	自治体
②	日本遺産南国宮崎の古墳景観活用協議会の運営	協議会幹事団体の連携と情報共有を強化し、それぞれの強みを活かした新しい事業を展開する。	協議会
③	民間団体との連携による事業展開	日本遺産事業でこれまで連携してきた民間事業者及び各実行委員会との連携強化、地域活性化を担うまちづくり団体との新規事業の提案・実施に向けて取り組む。	協議会 自治体 民間団体
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	年間を通じて各構成文化財に関するイベントで協働する団体数		
2022			
2023			16
2024	年間を通じて各構成文化財に関するイベントで協働する団体数		17
2025	年間を通じて各構成文化財に関するイベントで協働する団体数		18
2026	年間を通じて各構成文化財に関するイベントで協働する団体数		20
事業費	2024年度:100千円    2025年度:100千円    2026年度:100千円		
継続に向けた事業設計	定期的な自治体担当者会及び幹事会を開催することで、安定的な協議会運営を再構築する。また、これまで連携してきた民間団体との既存イベントに加え、各自治体で活動するまちづくり団体とのWGを設置するなど、民間活力を活かして日本遺産に関する新規事業を展開する。		

## (事業番号 1 - B)

事業名	令和 8 年度日本遺産サミット（宮崎大会）に向けた取組		
概要	令和 8 年度の日本遺産サミットの開催候補地として内定していることから開催に向けた組織体制を整備する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	プロジェクトチームの結成	民間 WG メンバーにより、令和 8 年度日本遺産サミット宮崎大会に向けた具体的な検討に向けたプロジェクトチームを組織する。	自治体 協議会 民間団体
②	日本遺産南国宮崎の古墳景観活用協議会と自治体間の連携	総会、幹事会での情報共有と自治体・県との連携を拡充する。	協議会
③	日本遺産連盟、文化庁との情報共有	日本遺産連盟、文化庁との情報共有・連携を図る。	協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	日本遺産サミット（宮崎大会）開催に向けた取組		—
2022			—
2023			—
2024	プロジェクトチームの結成（民間 WG 等）	組織化	
2025	開催内容（日時・会場・プログラム）等の検討会議開催数、実行委員会結成	4 回	
2026	実行委員会開催数	6 回	
事業費	2024 年度：— 2025 年度：— 2026 年度：20,000 千円		
継続に向けた事業設計	これまでの日本遺産サミット（フェスティバル）の開催概要や今後の日本遺産サミットの情報収集を行い、宮崎大会ならではの開催内容とおもてなし等を検討する。		

## (7) - 2 戦略立案

## (事業番号 2 - A)

事業名	協議会組織内での課題の共有及び戦略会議の開催		
概要	日本遺産事業を推進するにあたり、各自治体庁内会議の開催、担当者会議、観光協会等との定期的な会議を開催し、協議会組織（幹事会）での情報共有や分析、戦略について、事業に反映させる体制を構築する。		
	取組名	取組内容	実施主体

①	定期的な各種会議開催による連携の推進	事務局内会議、各自治体庁内会議、担当者会議を定期的に行い、情報共有を現状把握と課題の整理を行うことで、日本遺産事業のPDCAサイクルを回していく。	協議会 自治体
②	WEB アンケート調査による現状把握・戦略立案	県民意識調査、市民・町民意識調査のほか、日本遺産に関するWEBアンケートを実施し、日本遺産ブランドの認知度向上のための戦略立案に取り組む。WEBアンケートは、各拠点施設や構成文化財イベントの際に随時実施する。	協議会
③	まちづくり団体、イベント実行委員会、交通事業者等との連携	各種民間団体と連携して、日本遺産ブランド向上に向けた取組や連携した新規事業に向けた戦略会議を開催する。	協議会 民間団体
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021			—
2022			—
2023			—
2024	関係者会議の開催数 ①事務局内会議、②各自治体庁内会議、③担当者会議、④各種民間団体WG、⑤幹事会		①12回、②6回、③4回、④2回、⑤2回
2025	関係者会議の開催数 ①事務局内会議、②各自治体庁内会議、③担当者会議、④各種民間団体WG、⑤幹事会		①12回、②6回、③4回、④3回、⑤2回
2026	関係者会議の開催数 ①事務局内会議、②各自治体庁内会議、③担当者会議、④各種民間団体WG、⑤幹事会		①12回、②6回、③4回、④3回、⑤2回
事業費	2024年度：—      2025年度：—      2026年度：—		
継続に向けた事業設計	①事務局内会議では、事業方向性や進捗状況、事務局運営状況の確認を毎月実施する。②各自治体庁内会議では、各構成文化財に関する課題の洗い出し、関連施設での講座やイベントの実施状況等の確認を行う。③担当者会では、各自治体及び県の担当者（観光・文化財）による協議会事業の進捗状況や各種事業の打合せ・報告等による情報共有を行う。④各種民間団体WGでは、構成文化財に関するイベントの連携体制の確認や日本遺産事業の企画提案（新規イベント・商品開発・収益事業）などにより、日本遺産のブランド力向上を検討する。⑤幹事会においては、協議会事業の事業計画及び実施状況の報告を行うとともに、各専門分野からの指示・アドバイスをいただく。		

(7) - 3 人材育成			
(事業番号3-A)			
事業名		日本遺産を活用する人材の育成及び各地域のボランティアガイドの充実	
概要		各地域で活動するボランティアガイド人材の充実を図るとともに、日本遺産をテーマとしたガイド団体の発足	
	取組名	取組内容	実施主体
①	ガイド養成講座の開催や定期的なガイド定例会・勉強会の実施	日本遺産をテーマとしたガイド養成講座を開催し、毎月の定例会や現地勉強会を実施することで、地域プレーヤーとしてのボランティアガイドの充実を図る。	協議会 自治体
②	地域住民や学校、観光客向けの普及啓発	日本遺産ストーリーに関する出前講座や拠点施設での体験・実験講座の充実を図る。	協議会 自治体
③	日本遺産に関する地域コーディネーターの育成	日本遺産の構成文化財を活用した事業の企画・立案が出来る地域コーディネーターを育成し、組織化を目指す。	協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	出前講座や日本遺産関連施設での講演・講座などの開催数及び参加者数	-	
2022		15回/306人	
2023		19回/集計中	
2024	出前講座や日本遺産関連施設での講演・講座などの開催数及び参加者数	20回/350人	
2025	出前講座や日本遺産関連施設での講演・講座などの開催数及び参加者数	20回/350人	
2026	出前講座や日本遺産関連施設での講演・講座などの開催数及び参加者数	20回/350人	
事業費	2024年度：100千円 2025年度：100千円 2026年度：100千円		
継続に向けた事業設計	日本遺産に関するボランティアガイドの育成講座を実施するとともに、各認定地域におけるボランティア等連絡会定例会・勉強会を毎月開催し、構成文化財に関する情報共有を行う。また、日本遺産関連の出前講座や講演、体験学習等を積極的に実施する。民間WG等を通じて地域コーディネーターとなりうる人材を発掘・育成し、今後の日本遺産事業を担う組織化を目指す。		

## (7) - 4 整備

(事業番号4-A)

事業名	日本遺産の認知普及を行う各種施設の整備		
概要	日本遺産ストーリー20の構成文化財の半数が集中する西都原古墳群のガイダンスセンター「このはな館」や宮崎県立西都原考古博物館の再整備による機能の拡充。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	西都原ガイダンスセンター「このはな館」再整備	令和6年度に改修する当施設において、日本遺産に関する看板サインの再整備やデジタルサイネージによる紹介、他の構成文化財を示すサインの設置等により認知度の向上を図る。	西都市
②	宮崎県立西都原考古博物館の再整備	令和6年度に開館20周年を迎えることを契機として、展示コーナーの一部リニューアルや西都原古墳群出土物の復元・展示を行う。	宮崎県
③	西都原古墳群史跡整備	西都原265号墳の整備のほか、第三古墳群内の発掘調査、地中レーダー探査を実施し、今後の整備活用に向けた準備を進める。	宮崎県
④	構成文化財の発掘調査と整備及び調査研究結果の発表	構成文化財の調査研究を行い、その結果をもとに構成文化財の整備やストーリーの肉付けを行う。また、調査研究の結果を広報することによって日本遺産の魅力の普及を促進する。	自治体
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	西都原ガイダンスセンター「このはな館」及び宮崎県立西都原考古博物館の入館者数	125,425人/60,907人	
2022		140,981人/63,395人	
2023		121,918人/67,440人	
2024	宮崎県立西都原考古博物館の入館者数 (このはな館：R6年度改修工事)		0人/77,800人
2025	西都原ガイダンスセンター「このはな館」及び宮崎県立西都原考古博物館の入館者数		147,000人/87,800人
2026	西都原ガイダンスセンター「このはな館」及び宮崎県立西都原考古博物館の入館者数		154,000人/97,800人
事業費	2024年度：222,511千円 2025年度： - 2026年度： -		
継続に向けた事業設計	ガイダンスセンター及び考古博物館の再整備により、観光客の増加が見込まれ、併せて整備されたサインやサイネージ等で日本遺産ストーリーに触れる機会が強化されることで、他の構成文化財を周遊するような誘		

客増加に繋げる。

事業の継続には、保存活用計画に基づき調査整備を行っている各自治体との情報交換を密に行う。また、調査研究の結果によって継続的に構成文化財やストーリーを補強し広報することで、新規の観光客の誘致だけでなく既存の観光客の再訪問を目指す。

(7) - 5 観光事業化

(事業番号5-A)

事業名	日本遺産の構成文化財を周遊させるための新たなツールの活用とインバウンド誘客を狙えるコンテンツ化事業
概要	各域の構成文化財を周遊させるための施策について、新たな取組みを打ち出すとともに、構成文化財を会場としたイベントや、日本遺産を取り入れたインバウンド向けツアーコンテンツを造成し、PRを強化する。

	取組名	取組内容	実施主体
①	民間事業者が推進する電動キックボードとの連携	広範囲に広がる古墳群を周遊させるためのツールとして、民間事業者が推進している電動キックボードを設置することで、アクティビティ要素を付加し、県内外からの誘客を図るとともに、日本遺産と接する機会が増加することで理解を深める。	協議会 自治体 民間団体
②	GPSを用いたデジタルスタンプラリーの実施	日本遺産の構成文化財周辺の多くは工作物の設置が困難であり、景観の妨げとなることから、看板等の設置が不要なGPSを用いた新たなスタンプラリーを実施することにより、各地域の構成文化財を周遊するきっかけを作り、日本遺産の普及啓発を図る。	協議会 自治体 民間団体
③	構成文化財を活用したイベントの実施	構成文化財を会場とするイベントの開催や、既存のイベントの会場を構成文化財へと変更することで、より多くの来訪者に構成文化財とストーリーを知ってもらうきっかけとする。	協議会 自治体 民間団体
④	構成文化財を組み込んだツアーコンテンツの造成	旅行会社と連携し、構成文化財とストーリーに触れることができるよう、インバウンド向けに構成文化財を取り入れたツアーコンテンツを造成する。	協議会 民間団体 旅行会社

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2021	認定地域（2市2町）の観光客入込数	419.5万人
2022		603.7万人
2023		※集計中
2024	認定地域（2市2町）の観光客入込数	701.9万人
2025	認定地域（2市2町）の観光客入込数	751.0万人
2026	認定地域（2市2町）の観光客入込数	800.0万人
事業費	2024年度：0千円      2025年度：200千円      2026年度：400千円	

継続に向けた 事業設計	各構成文化財を周遊させるシステムを構築するため、民間事業者が模索する新たなツールを活用し、アクティビティやデジタル関連の要素を取り入れた事業を展開することで、観光客の滞在時間の延長や観光消費額の増加を目指す。また、インバウンド誘客と併せて地元や県内外への普及啓発につながるイベントを開催するとともに、観光担当者と文化財担当者が広域で連携し、地域や文化財と深く触れ合うことのできるツアーコンテンツを造成する。
----------------	---

(7) - 6 普及啓発

(事業番号6-A)

事業名	構成文化財の保存・継承活動を通じたシビックプライドの醸成		
概要	地域住民が構成文化財の保存・承継に関する活動に対して、連携を強化して取り組むとともに小中学生も巻き込むような事業を実施することでシビックプライドの醸成を目指す。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	地域住民と小学生が連携した構成文化財の保存継承活動	小学校の総合授業のなかで、清掃活動やPR 企画書作成、ガイド活動などの構成文化財の保存・継承活動を行う。	自治体 地域住民 教育機関
②	構成文化財を巡るイベントや体験会の実施	構成文化財を巡るバスツアーやフォトラリー、スタンプラリー等を開催するほか、地域住民や民間団体が主催する事業も積極的に協働し、日本遺産ストーリーの普及啓発を行う。	協議会 民間団体
③	日本遺産関連施設における講座、体験学習の充実	日本遺産に関する講座や体験学習を充実させることで、子どもから大人まで古代体験や古墳景観に触れる機会を提供する。	協議会 自治体
④	学校教育現場における日本遺産普及啓発活動	各自治体の小中学校教育活動の一環として取り組まれている地域との協働学習、総合授業、地域学などの授業のなかで、日本遺産に関する普及啓発活動に取り組む。	協議会 教育機関 地域住民
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	地域住民と小中学生が連携して構成文化財の保存・伝承活動に取り組む事業数		2
2022			2
2023			2
2024	地域住民と小中学生が連携して構成文化財の保存・伝承活動に取り組む事業数		3
2025	地域住民と小中学生が連携して構成文化財の保存・伝承活動に取り組む事業数		3
2026	地域住民と小中学生が連携して構成文化財の保存・伝承活動に取り組む事業数		4
事業費	2024 年度：-                      2025 年度：-                      2026 年度：-		
継続に向けた事業設計	構成文化財を活用した民間団体や実行委員会と連携して取り組むイベントのほか、地域住民と小中学生が連携した構成文化財に関する普及啓発を図るための新規事業に取り組む。		

(7) - 7 情報編集・発信

(事業番号7-A)

事業名	協議会 HP、SNS を活用した情報発信		
概要	協議会 HP や SNS を中心として、各構成文化財や拠点施設行事、イベント等を網羅した情報を掲載するとともに、日本遺産の魅力や古墳景観の素晴らしさを発信し、実際に体験する機会の創出を図る。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	協議会の公式 HP による情報発信、日本遺産ポータルサイトへの投稿	各構成文化財に関連する自治体や観光協会、イベント企画等の情報を共有し、協議会 HP で積極的な情報発信を行う。また、閲覧しやすいようなページとして整備し、随時更新する。	協議会
②	協議会の Instagram による情報発信	イベント情報などのほか、古墳景観の良さや魅力的なロケーション素材を提供し、ファンの獲得と実際に足を運びたいくなるような投稿を行う。	協議会
③	日本遺産関連施設における情報発信	日本遺産関連施設やガイダンスセンターにおけるサイネージサイン、パネル展示、集客イベントでのチラシ配布などによる積極的な広報活動を行う。	協議会 自治体
④	イベントでの日本遺産 PR ブースの設置	構成文化財関連イベントにおいて、民間団体や実行委員会との連携を図り、日本遺産ブースを設置し、来場者への PR を行う。	協議会 民間団体 実行委員会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	協議会の Instagram フォロワー数		未集計
2022			未集計
2023			416
2024	協議会の Instagram フォロワー数		500 (前年比+20%)
2025	協議会の Instagram フォロワー数		600 (前年比+20%)
2026	協議会の Instagram フォロワー数		720 (前年比+20%)
事業費	2024 年度：200 千円 2025 年度：200 千円 2026 年度：200 千円		
継続に向けた事業設計	協議会 HP や日本遺産ポータルサイト、協議会の Instagram 等を積極的に活用して古墳景観の素晴らしい情景やフォトスポット、イベント情報等を高い頻度で更新することで、多くのフォロワー等に向けた日本遺産の情報提供を行う。また、各市町や日本遺産関連施設、観光協会・まちづくり団体等、官民連携での SNS 情報発信に取り組む。		

構成文化財の写真一覧 (10)

【⑱持田古墳群第15号墳(石舟塚)出土石棺】

⑱古墳の中におさめられていた棺



【⑳高鍋大師】

⑳古墳に眠る祖先の慰霊のために造られた巨大石像群

